

「かす汁にア・レ」

C.BOWLINN

ああ やっぱりあんなに飲むんじゃなかった

山あいの地獄のような登り坂を、さほど歩いているのと変わらないスピードで足を運んでいる

まるで夢のなかでマラソンを走っている、あの走っても走っても前に進まない感覚だ

走りながら紅葉狩りをしているような、せっかくのコースなのに首を垂れ、見ている景色はほぼ地面

もったいない話だが、しんどくって顔をあげられない

いつもはハーフ、ときどきフルマラソンを走っている

10月のハーフが終わり、次のエントリーは2月のフルマラソン

その間の練習を欠かさないため、里山を走る10キロコースのレースにエントリーした

エントリーしておくとは否応なくコンスタントに練習することになる

「長閑な日本の原風景を見ながら家族や仲間と楽しく走る」というのがエントリーした大会のコンセプト

モチベーションを維持するには恰好の大会だと思い走ることにした

今回は、誰も誘わず単独でエントリー

(大会前夜)

コッペをもらった。それにキムチ鍋

料理が、どうぞどうぞと、日本酒を飲めと誘ってくる

まあ 10 キロだし大丈夫か

ビールとハイボールを飲んだ後だというのに冷酒が進むこと進むこと

まあ 10 キロだしね



(翌朝)

現地までは車で移動 自宅から会場までは小一時間くらいか

いつもの国道を左に折れると、途端に景色が変わる

ダムで堰き止められた湖の周囲は寒暖差が激しいのか、もみじやハゼの紅葉が
ここでは早足で進んでいて朝のひかりに赤が眩しい

深紅の絨毯を敷いたように歩道が続いていた



さらに奥地にすすむと会場にたどり着いた

このくらいの距離感がちょうどよい

昨日まで降っていた雨もすっかりあがり暑くも寒くもない絶好のマラソン日和
駐車場は、車であふれかえっていて、大会スタッフから脇道に停めるよう指示される

ここから会場までは運動場を横切ることになる

若干ぬかるんでいるはあるが、靴に泥がつくほどではない

普段、ほとんど使われていないのか運動場は、人の足跡よりも鹿の足跡のほうが目立っている

全体でエントリーした人数が 300 人くらいの少人数の大会だが、会場は、地元の人が屋台村を作ってくれアットホームな雰囲気にもまれていた

走り終わったら、なんか食べよう

オリンピックの女子選手も特別ゲストと一緒に出走しスタート

最初は平坦な道を 1 キロほど走って折り返しスタート地点に戻ってきたが、そこから先は全部山道になっていた

二日酔いというほどではないものの、やはり昨日の酒の影響が思い切り走りに出ているのがわかる

すぐに息が上がる、脳が揺れて頭が痛い

コースはアップダウンを繰り返し、とても 10 キロとは思えない距離に感じた

最初にスタートしたハーフの部のトップランナーが戻ってきてすれ違う

坂道をものもしない見事な走りだ

どこかに折り返しがあり、この道をもう一度戻ってこないといけない

トップランナーと今すれ違ったということは、折り返しはまだまだ先だ～

いや、余計なことは考えまい

一步一步、歩を進め、少しずつ、少しずつ前に、前に

途中、オリンピックに追いついた

応援に徹しているので、ゆっくり走っている

「やっと追いつきました」と声をかけると

「ああ 追いつかれた～」と悔しそうな演技をしてくれた

のりがいい！気さくで愛想のよい人だ

こういうのがあるとちょっと気持ちが楽になる

みえた 折り返しだ

後半はさらに足に疲労たまっている

つる寸前だ

力を合わせて走っているカップルランナーに抜かれた

なかには自分以上に疲弊しているランナーもいる

時折、走ったり歩いたりを繰り返しているのランナーを追い抜いたりもする

必要以上に汗をかき、体力を奪われ、思った以上に時間もかかったが

ようやくとゴール！

時計を見ると、練習のときと同じような時間だった

下りもあったし、アドレナリンも出てたのかな？

屋台村に戻ってくると、ちょうど表彰式が行われていたが、目が向くのは表彰台よりも屋台村だ

ゴール後は、しんどかったのがウソのように何か食べたくなった

カレー、焼きそば、うどん、たこやき、クロワッサン・・・

いろいろ目移りしたものの、最後に目に留まったのは「かす汁」

ほかより 100 円安い 400 円

冷たいものもいいが、暖かいものを胃袋にいれたいくなるものだ

「すみません かす汁ください」

「はい」

優しそうなお姉さんが、紙コップにかす汁をよそってくれた

ただ、よそっている最中に意外な問いかけをしてきた

「シジミはいれますか？」

え？シジミ????

普通かす汁にシジミなんか入れる？

もしかして、道中のダムとかでシジミが採れたりしてこの地域の名物なのか？

シジミには タウリンが含まれているのでアルコール分解に必要な酵素の手助けをするという

シジミ入りのかす汁って最高じゃない？

「はい！入れてください！！できれば、たっぷりお願いします！！！」

そう即答して心踊らせた

「はい」

お姉さんは、笑顔で答えてくれる

しばらくするとお姉さんが戻ってきた

「ちょっといれすぎたかもです」

「いえ、むしろありがたいで…」といいかけ口籠る

紙コップの表面が真っ赤になっていた

なにこれ？と思いつつも、笑顔のお姉さんから、ひきつった顔で割りばしとかす汁を受け取った

「ありがとうございました」

「こちらこそ ありがとうございます」

お礼をいってすぐに飲み始めたが、あまりの辛さと熱さで思い切りむせかえる

ゴホッゴホッ

何度もせき込んで少しずつ口に入れる

身体が熱くなっていくのがわかる

ゴホッゴホッ

あれ？

割り箸でかきまわし、具をすくい上げるがシジミが一向に見つからない

んん？

そういえばシジミの香りもまったくしていない

ゴホッゴホッ

結局、シジミは見つからず、紙コップを捨てようとゴム箱に入れようとした瞬間ハタと気がついた！

お姉さんは、「シジミ」ではなく「シチミ（七味）」を入れるかどうかを聞いてくれたのだ。

あほが足らず、たっぷり入れてくださいなんて言ってしまった！

表面が真っ赤になっていた原因はこれだ

モチベーションを保つためにエントリーした大会は、とても か・ら・だ温まる
大会となった

おわり